

せせらぎ通信

自然環境保全の大切さを考える集い

講演会等のご案内

平塚市共催事業

12月17日(土) 1:30~4:45

未来のいのちをともに！
森が荒れています適正に守らなければ、
川の水質は良くなってきているかな、
海は水温が上がってきています。
手を携えてなんとかしよう。

会場 ひらつか市民活動センター会議室 JR平塚駅南口から徒歩2分

平塚市八重咲町3-3 JAビルかながわ2階

講演 藤吉 正明 東海大学教養学部人間環境学科 自然環境課程 准教授

演題 湘南海岸の海浜植物

・ 砂浜の環境・砂浜に生育する植物・砂浜 市町村ごとの特徴

湘南海岸は全国でも有数の
19km続く海岸です。

ところが、
開発と侵食と過度の利用によって
砂浜は縮小し、海辺の植物は
減少しています。

—ポスターセッション 砂浜散歩・漂着物を見てみよう—

—パネルディスカッション 3:10~ —

市民が結ぶ、森と川と海のつながり

コーディネーター 金目川水系流域ネットワーク 柳川 三郎

パネラー 丹沢山塊の自然を考える会代表 鈴木盛彦

里山をよみがえらせる会代表 小清水四郎

相模川湘南地域協議会代表 峯谷一好

相模貝類研究談話会会長 福田良昭

水害防備林活動家 石野和男



金目川

生き物観察会

をふり返って

北野忠

東海大学 教養学部

人間環境学科

自然環境課程

夏休みが始まったばかりの暑い
なか、例年と同じく、今年も金目川
生き物観察会が開催されました。
参加者の怪我やトラブルもなく無
事に終わったのは、主催者である金
目川水系流域ネットワークや平塚
市環境部環境政策課の皆様方のお
力に加え、神奈川県環境科学セン
ターの斎藤さんや相模湾海洋生物
研究会の永井さんや木村さんをは
じめとした多くの方々(そして私
のゼミの学生たちも!)の協力が
あつたことと思います。

ところで、この金目川生き物観
察会も今年で6回を数えました。
中には第1回のときから毎年欠
かさず参加してくれて、今年6年
生になっていた子もいます。毎年参
加してくれて嬉しく思うことに
も、来年は中学生になるので原則
としては参加しなくなってしまう
と思うと、少し寂しい気もします。
また、6月頃だったと思います
が、金目地区にお住まいの方から、
今年も観察会は開催されますか？
という質問をいただいたことがあ
りました。その方のお子さんも
1年生のときから参加して
おり、毎年楽しみにしていること
のことでした。(2ページに続く)



自分たちの活動を楽しみにしてくれる方がいらっしやることは、本当に嬉しく思いますし励みにもなります。少し大きな表現かもしれませんが、この観察会は金目地区の夏の恒例行事になったと言えるのではないのでしょうか。

話は変わりますが、私は今から7年前に、平塚市北金目にキャンパスを置く東海大学の教養学部人間環境学科自然環境課程の教員に採用されて静岡から神奈川に来ました。私はそれまで魚類を中心とした水辺の生き物の分布や生態を調べていましたので、教養学部の教員になってからも、授業やゼミ活動の一環として学生たちと大学周辺の水辺の生物相を調べることになりました。

ある日、金目川の土屋橋近くで学生と魚類調査をしていたところ、現在、ネットワークの代表をされている柳川さんがたまたま通りかかりました。私たちが採集した多くの魚やエビが入っているバケツを見て、「こんなにいろんな生き物が見られるのなら、金目の子たちにも見せてくれないか」と頼まれました。これが、この金目川生き物観察会が開かれるきっかけだったと記憶しています。

三年目からは平塚市も主催に加わり、参加者募集や当日の運営などは両方で協力しあって進めているので、私は当日に学生とともに出かけて参加するだけで、正直な話、非常に楽をさせていただいております。

ですが6年前は手探り状態のなか、柳川さんと何度も打合せをしたり、金目小学校とみずほ小学校に直接つかがって会の趣旨を説明することにも開催の許可をいただいたりと慌しかったように思います。また、実際に参加者を募ったところ、嬉しいことに予想を大幅に上回る申し込みがありました。

当初、もし申込者数が多かった場合は抽選により参加者を決め

ることにしており、申し込み用にもそのことを明記はしてありましたが、さすがこちらから参加を呼びかけておきながら、抽選でもれて参加できないのはたいへん申し訳ないことですから、申し込みをしてくれた全員が参加できるように、急遽午前と午後の部に分けることにしました。このときは、午後の部にまわっていただけなのか、申し込みをされたご家庭に一軒一軒電話をしてお願いくるとともに、スケジュールや名簿を作成し直すなどたいへん忙しかったのを思い出します。

その後、前述のように当会と平塚市主催の行事になったり、神奈川県環境科学センターの斎藤さんや相模湾海洋生物研究会の永井さん、木村さんをはじめとする講師陣をお招きしたり、ここ数年は午前の部のみで開催になったりと毎年少しずつ変わってきてはいますが、「金目川流域の周辺にお住まいの方」と「金目地区にキャンパスを置く大学の学生と教員」が、「金目地区の子どもたち」と一緒に採集・観察するという基本的な内容は変わらずに毎年開催に至っています。

なお、大学の教員は、自身が専門とする学問分野の研究活動と、学生の教育が仕事ではありませんが、フィールドを研究・教育の場とする私のような者は、単に研究や学生指導をするだけではなく、職場である大学のキャンパスがある地域の方との関わりや、地域への貢献も重要な責務の一つではないかと思っています。この観察会への手伝いなどの程度の貢献になっているのかは自分では分かりませんが、少しでもお役にたっているのであれば幸いです。

また、この観察会の目的は「体験や実験を通して、子ども達の身近な自然への関心を深め、環境保全意識を高める」ことです。年に一度の観察会ではありませんが、これがきっかけで地元の自然や、水辺の生き物たちに少しでも興味関心をもつようになれば、と思います。そしてこの観察会に参加した子どもたちの中で、将来この観察会の主催者側になったり、または生物の研究者になったりする人材が出てくるようでしたら非常にうれしく思います。

葛葉川

生き物観察会

アドバイザー

松本 晃一

天氣に恵まれなかった昨年に対し、秋晴れのお天気の中、秦野市の小学生3名とご一緒したくさんの参加した、今年の生き物観察会。金目川水系流域ネットワーク、えのきの会、葛葉の家で行った今回の観察会ですが、私もこのような観察会を数度経験したことがありましたが、いつも始まる前はどのような話をしようかと、うまく伝わるか考えながら当日を迎えます。

今日のスケジュールは午前…生き物採取、生き物観察 午後…生き物のお話・水の循環のお話、クイズとなっていました。

徐々に集まってくる小学生たちは、朝から目がキラキラな子、眠そうなお話、めんどくさそうなお話で親に連れてこられた子、様々です。

(3) ページに続く

午前中、集合場所である「くすのき広場」で金目川ネット会長の柳川さんの挨拶が終わり早速、班ごとに入川。今日は参加人数が多いため、6班に別れて、各班のリーダーは金目川ネット、えのきの会の方になつていただき、採取しました。採取が始まると、朝は元気が無かった子ども達も元気に採取をしており安心しました。それよりもこれは今回諸注意でも話が出ており、このよつな観察会を開催すると僕自身の実体験としても思うところですが、子どもたちも喜んで参加しながら親御さんが採取に夢中になつてしまひ子どもはぼんやりとちのけになつてしまひます。



これは決して悪いことではないですが、限られた人数で行う野外の体験授業は親御さんの協力なくしては行うことはできません。ですから、必ず毎回諸注意として上げさせていただくのがおさまりになつていきます。採取場所は高葉の家から橋を渡り1〜2分のところまで、リーダーの先導で高葉川の本流部分に1ヶ所、サワガニが多く生息する細流部分にもう1ヶ所の計2ヶ所で行いました。各ポイントでの採取を行った後、くすのき広場に帰り観察しました。

水生昆虫等の担当で来ている私としては悲しい限りです。そのあと、環境科学センターの斎藤さんから魚について、くわしく説明していただきました。水槽いっぱい魚を見たり子どもたちはどの子も生き物を捕まえる時と同じくらいキラキラした目をしていました。同じくらい、目をキラキラさせていたお父さんたちが沢山いたことも言うまでもありません。ひと通り観察し終えたあと、お昼を挟んで、午後のスケジュールへ。生き物のお話とクイズはそれぞれ3班ずつに分かれて話を聞きました。生き物のお話は…パワーポイントで優しく説明と水の循環つながりについても「コンピュータシミュレーション」を駆使した新しい説明を行いました

特にオニヤンマの顎についての説明は非常に興味を引くことができよかったです。また、ハリガネムシは結んでも自分で体をくねらせ解いてしまふということにとても驚いていました。最終的にはサワガニと同じくらいハリガネムシは大人気でした。全体を通し大成功でも、子どもたちもとても楽しんでもらえたと思います。ここからは個人的な反省点と分かったこと。

- クイズで多数派に引かれてしまふ子が多かったこと。間違えることに臆病になっているのか、なかなか自分が思ったとおりの答えのところに行かないのが残念。
- みんな大きな生き物が好きで、小さい昆虫が沢山いたはずなのにこれももらえなかった。これは水生昆虫で環境教育を行う僕としては一生懸命の課題と言つてもいい。

魚…ウグイ、アブラハヤ、シマヨシノ

トビ

昆虫…オニヤンマのヤコ、サナエト

ンボのヤコ、ヒゲナガカワ

トビ、ケラ、しまとび、ササの

仲間、カゲロウの仲間等

その他…サワガニ、ミズムシ、ハリ

ガネムシ、シマメンビル

子どもたちにも一番人気があったのがサワガニ、その次にヨシ

ノボリなどの魚でした。

私もここで少し、トビについて説明させていただきました。

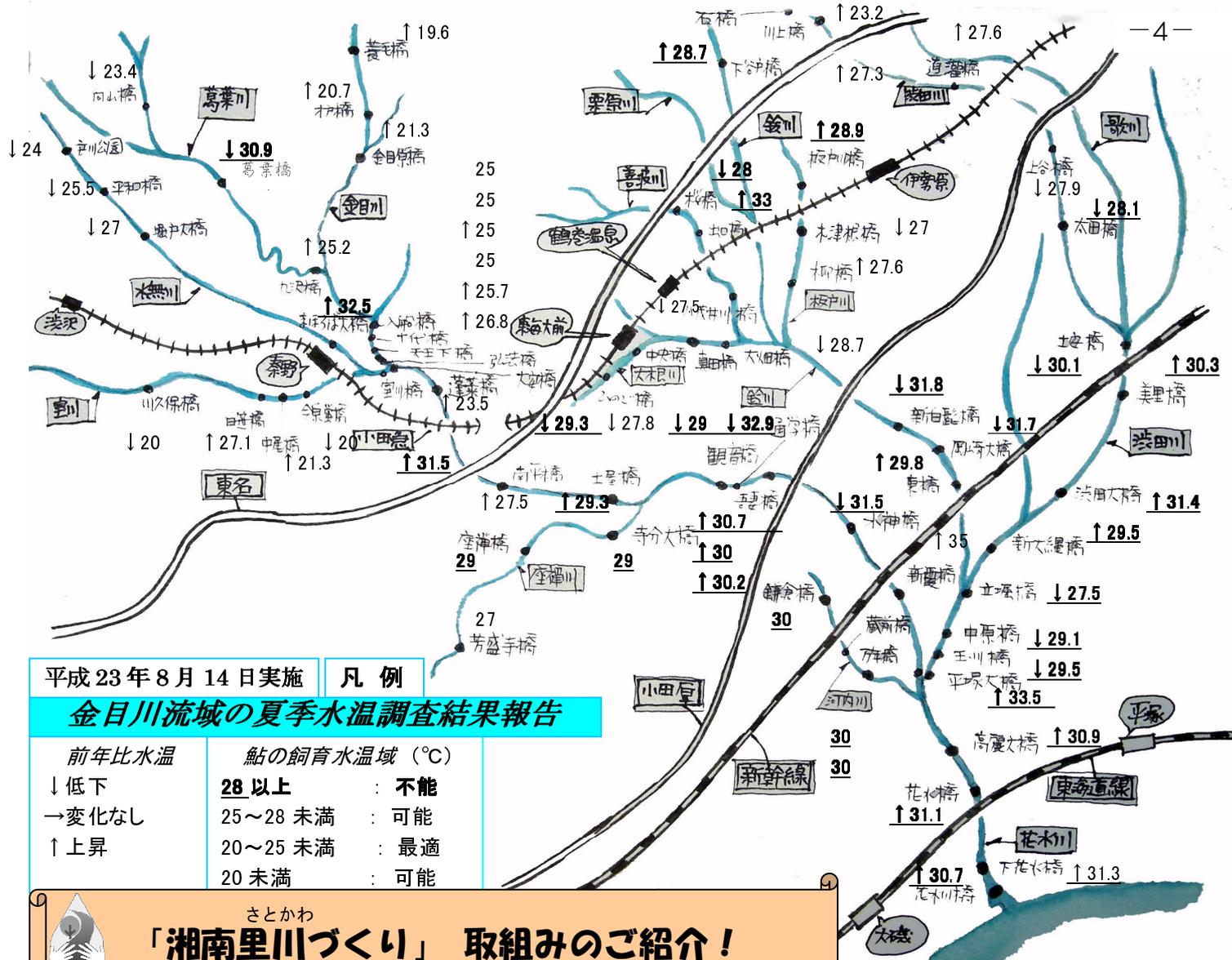
このことについて、改めて申し上げたいのが、小さなその昆虫たちがいるから大きな魚たちが生きることができ、ひいては人間たちが生きることができるとのことについて。小さな昆虫たちが大きな生き物の餌になるだけではなく、落ち葉な

どの有機物を分解してくれたりするおかげで河川の環境が保たれているということ。また、取って説明しなかつたのですが、子どもたちが採取したカニが2種類いた事にみなさんはお気づきだったでしょうか。青いカニと赤いカニがいたかと思ひます。

これはなんでだとおもいますか。主な原因は生息している環境の餌らしいですが、よくわかつていない事です。こんな単純なことです。「なんで？」と思った子どもも居てくれることを願っています。また、親御さんはその「なんで？」を覆すにせず、一緒に考え上げて欲しいと思ひます。

今回の最後の挨拶で金目川ネットの柳川さんがおっしゃられていましたが、今回の会が親子についていろんな会話、特に地域の環境に関わる会話をしていただけではない、でも嬉しいこと、今後そのような機会を提供できるのを目指しては良いと思ひます。

また、わからないうちや困ったことがあれば聞ける窓口にもなわわは良いと思ひます。



平成 23 年 8 月 14 日実施

凡 例

金目川流域の夏季水温調査結果報告

前年比水温	鮎の飼育水温域 (°C)	
↓低下	28 以上	: 不能
→変化なし	25~28 未満	: 可能
↑上昇	20~25 未満	: 最適
	20 未満	: 可能

「湘南里川づくり」 取組みのご紹介！

“湘南里川（さとかわ）づくり”とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の河川等を、次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民主体による清掃、植栽、生き物観察会などの河川等の保全・活用を、流域全体に広げていく取組みです。河川の清掃、草刈りなどの保全活動を流域全体で盛り上げるため、「湘南里川づくり・クリーンキャンペーン2011」を実施しましたので、ご紹介します。

- 日 時** 平成23（2011）年6月1日（水）～7月31日（日）
- 実施内容** 金目川水系の河川や水路における土手、散策路、親水公園などの清掃や草刈りなど
- 参加団体** 伊勢原地区環境保全連絡協議会、金目川をきれいにする会、河内川あじさいの会、座禅川をキレイにする会、鶴巻あじさい散歩道美化の会、鶴巻親水遊歩道の会、鶴巻ホテルの会、長瀬鈴川土手をきれいにする会、21 浜田川プロムナードプラン推進協議会、秦野市各地区まちづくり委員会、ピオトープぬまめ、平等寺砂防会（五十音順）
- ※クリーンキャンペーンに参加した東海大学生の報告書をホームページでご覧いただけます。

湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」も募集中です。
詳しくは、ホームページで！

お申し込み・お問い合わせ先
湘南里川づくりみんなの会事務局
 神奈川県湘南地域県政総合センター 企画調整課
 電話 (0463) 22-2711 (内線 2111~3)
 ホームページアドレス <http://www.satokawa.com/>

里川づくり 検索